

# 母国の世界遺産 守れ

## ユニタール広島で研修



世界遺産に関する20カ国の専門家たちが集まったユニタール広島事務所の研修 (広島市中区)

ける世界遺産保全の幅広い取り組みやシステムを学んでほしい」とあいさつ。講師を務める国連教育科学文化機関(ユネスコ)の文化担当アドバイザーのリチャード・エンゲルハート氏は「世界遺産と観光とのかかわりなど、経済の観点からの検討も進めたい」と研修の狙いを説明した。

参加者のほとんどが世界遺産がある地域で、自然・文化遺産の管理、観光事業に取り組む専門家たち。原爆ドーム(中区)と厳島神社(広島県宮島町)も視察してテーマごとの実践演習に取り組み、最終日に成果や今後のプランを発表する。

ユニタールは広島県が誘致し、昨年七月に中四国初の国連機関として設置された。研修の実施は今回で三回目となる。

「世界遺産の管理と保全」をテーマにした国連訓練調査研究所(UNICTAR)ユニタール)広島事務所の研修が八日、同事務所のある広島市中区の広島商工会議所ビルで始まった。十二日まで五日間、二十カ国の科学者や建築家ら二十七人が参加する。

研修では、ユニタール広島事務所のナスリン・アシミ所長が「日本にお